

小学校社会科における歴史を学ぶ意味を考える授業実践

ー 峡東地域の地域教材の活用を通してー

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 初等教育分野 三澤 瞬

1. 問題の所在

小学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）第6学年内容の取扱い(2)のキには、「歴史学習全体を通して（中略）現在の自分たちの生活と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事を基に現在及び将来の発展を考えたりするなど、歴史を学ぶ意味を考えるようにすること」とある。つまり、歴史学習を単なる事実認識に終わらせることなく、歴史を学ぶ意味を考えながら理解していくことの大切さも求められている。

棚橋（2024）によると、「小学校第6学年での歴史学習の単元においては、その時代の為政者や文化に影響を与えた人物、政治が行われた舞台を中心に学ぶ。しかし、児童と歴史的事象との距離はかけ離れてしまっている。その結果、歴史学習は『覚えることが多い教科だ』、『自分の生活には関係ない』という意識を児童がもつことに繋がってしまう。」と述べられている。

筆者が行なった児童への歴史に関するアンケート調査の結果においても「覚えることが多すぎる」「言葉がごちゃごちゃしてわからない」「知っている人物が出ると嬉しい」といった回答が見られた。このことから、児童の歴史学習のイメージは、人物や用語を記憶することに重点を置いているということがわかった。また、学習の目的についても、知識を身に付けることと捉えている児童も多かった。歴史から「何が学べるのか」「歴史をなぜ学ぶのか」など歴史を学ぶ目的や大切さについてまで考えている児童が少ないことも分かった。その原因としては、児童が歴史学習で学ぶ歴史的事象を身近に感じられなかったり、学習の中で思考する場面が少なかったりすることがあるのではないかと考える。

以上のことから、小学校6年生の歴史学習の単元において、自分事として歴史学習を捉え歴史を学ぶ意味について考える必要性があると考え

えた。そのために、本研究では、地域素材を活用し、歴史を学ぶ意味を考えることでどのような効果があるのかを明らかにするべく、実践研究を実施していく。

2. 先行研究

地域素材を活用した先行研究について見ていく。

木村（1965）は、「郷土学習の意義」について、第一に、「子どもの興味を呼びおこし、学習に実感をもたせ、問題意識をもって主体的に学習させるのに役立ち」、第二に、「社会科の学習に具体的現実的な資料を提供することによって、科学的な社会認識の基礎を培うことに寄与する」と述べている。さらに、高橋碩一氏の言葉を引きながら、第三に「『直接経験では学び得ない社会科学の知識や法則を学習するとき、あるいはした時、それがどのような一般性をもっているか、正確であるか、を郷土の身のまわりの具体的な事事物象によって検証』させるという意味を持つ」としている。

また、石井（1981）は、「社会科で地域をとりあげる意味」について、次の5点にまとめている。「地域教材は、①子どもの興味・関心を集めることができ、②子どもが直接経験できるものであり、したがって③子どもが直接観察・比較でき、その具体的な観察を通して④子どもの共感を呼び起こすことができ、そして、⑤子どもにとって身近であり、リアルに事実をつかみとることができる、ことから『子どもの主権者意識を育てるのにふさわしい教材だ』」としている。

これらの先行研究を踏まえ、堀田（2019）は、「注意が必要なのは、地域教材を活用すれば万事上手くいくというわけではないという点である。（中略）つまりこれは、身近な地域やテーマを扱った地域教材の活用が、全ての子どもたち

にとって『歴史を学ぶ意味』を考えるきっかけを与えるものではないということを示している。この結果は、どのような教材を用いてどのように歴史教育を行えば『歴史を学ぶ意味』を児童たちに実感させられるのか、教材研究を決して怠ってはならないことを暗示しているように思う。」と述べている。

よって、先行研究から、児童が地域素材を調べるだけにとどまらず、「歴史を学ぶ意味」につながる授業実践をしていくことが重要だと考えた。そこで、児童がこれまで訪れた経験のある文化財などを活用した授業を実践することとした。地域教材と歴史単元を関連づけた学習活動を通して児童が「歴史を学ぶ意味」をどのように捉えていくのかを検証したい。

2. 研究の目的と検証方法

本研究の目的は、小学校社会科において、地域素材を教材として活用し、授業実践を行うことで、児童が「歴史を学ぶ意味をどのように捉えるのか」を検証することである。

検証項目は、児童に地域の教材を用いた授業を行うことで、「歴史を学ぶ意味」をどのように捉えるかである。

そこで、以下の2つリサーチクエスションを立てた。①歴史学習において地域教材を活用する事は、児童が歴史的事象と地域との関わりを理解するのに効果的か。②歴史学習において地域教材を扱うことは、児童が歴史で学んだことを地域や社会生活において活用できると考えられることに効果的か。である。

2点のリサーチクエスションの検証には、実践前と実践後の児童へのアンケート比較、単元終了後の「振り返り」の記述分析を利用する。

アンケートでの検証項目は、表1とした。

表1 アンケート項目・回答方法

調査項目	回答方法
1. 歴史の授業は好きですか。	①とても好き②好き ③あまり好きではない④きらい
2. 歴史で学習したこ	①とても役に立つ

とは、今の自分たちの生活の役に立つと思いますか。	②役に立つ③あまり役に立たない ④役に立たない
3. 歴史の学習で学んだ出来事と地域のことは関係があると思いますか。	①とてもあると思う ②あると思う ③あまりあると思わない ④あると思わない
4. 歴史の学習をして、地域の歴史について調べたいと思ったことはありますか	①ある ②ない

3. 授業実践の概要

(1) 対象校

山梨県公立小学校

(2) 対象児童

第6学年2クラス 児童 50名

(3) 授業実践単元

小単元「室町文化と力をつける人々」全7時間
単元の目標

- ・今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や年表などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。(知識・技能)
- ・室町時代の文化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。(思考・判断・表現)
- ・室町時代の文化について、主体的に学習問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統と大切にして国を愛する心情を養う。(学びに向かう力・人間性)

(4) 児童の実態

調査対象学級は、授業中の発言が多く、積極的に学習に臨む姿が見られる。また、ペアやグループの活動においても、意欲的に意見を交換するなどして学習内容を深めようと協働

的に学習を進めることができる。学習活動に対しても意欲的な面が見られる。一方で、学習内容の理解については、個人差が大きい。歴史学習においても同様の差が見られる。

(5) 授業について

実際の授業では、小単元を2つのパートに分けて学習を進めた。パート分けと学習内容については以下の表2のように設定した。

表2 単元の概要

パート	学習内容
1	室町文化についての学習（4時間） 学習問題「室町時代にはどのような文化が生まれたのだろう」 ＜考えてわかること＞ 室町幕府がおかれた頃に生み出された文化は、現在の生活文化につながる要素をもっており、今も受けつがれて多くの人に親しまれている。
2	室町文化と山梨市のつながりについて考える学習（3時間） 学習問題「室町の文化と清白寺はどのようなつながりがあるのだろう」 ＜考えてわかること＞ 清白寺と室町の文化は、建物や人物でのつながりがある。京都にある室町幕府と離れた場所でも室町の文化を伝えるものがある。

第1パートでは、教科書を用いて学習を展開した。小学校の歴史単元では、この学習以前に学ぶ文化は「国風文化」となっている。児童には、「国風文化」には「ひらがな」「神殿造」「十二単」などの特徴があり、貴族によって発展した文化であること学んでいる。それらを踏まえ、室町の文化は、誰によって発展し、どのような特徴があるのか、国風文化で追究した視点をもとに、学習活動を行なった。児童は、貴族に変わり武士が文化を発展させたこと、水墨画や現在も残る寺院などがあることを、教科書の資料などを通して理解することができた。しかし、京都で開かれた幕府と、児童の通う小学校周辺の史跡の関連について気づき、考えることができた児童は見られなかった。

そこで、第1パートのまとめ後に、「山梨市と室町の文化はつながりがあるのか？」という問いを立て、第2パートの導入の部分となるような授業展開を計画した。この問いに対して、第2パートの授業では、児童から「教科書の記述や資料に、山梨市が出てきてないことから、つながりがあるとは言えない」と発言する児童が見られた。また、「具体的に何か文化財などがあればわかるかもしれない」という児童の発言も見られた。そこで、清白寺の写真を示し、清白寺と室町文化の関連を考えるように地域教材を活用した学習内容を設定した。

今回の授業において、清白寺を教材として取り上げた理由は、以下の3点である。

- ①対象学年の児童は、第4学年の時に、校外学習で清白寺を訪れたことがある。
- ②対象小学校から歩いて行ける距離にあり、児童が調べに行くことができる。
- ③国宝に指定されている文化財があり、価値を実感しやすい。

児童からの問いをもとに、第2パートでは、新たな学習問題を設定し、清白寺と室町文化との関連を調べる活動が中心となるような授業展開を行った。第2パートの学習は、表3の流れで行なった。

表3 第2パートの学習計画

時	学習内容
第1時	◎学習問題づくり ・清白寺についての学習問題を設定 ＜学習問題＞ 「清白寺と室町文化はどのようなつながりがあるのか調べよう」
第2時	◎調べ学習 ・これまで学んだ室町文化と清白寺には関連があるのか調べ、ワークシートにまとめる。
第3時	◎まとめ ・調べたことを交流し、つながりを理解する。 ・学んだことを活かして、清白寺のよさを伝える活動を考え交流する。

第2時の「清白寺の調べ学習」では、児童が一人一台端末を使用してワークシートに記述する形で調べた内容をまとめることとした。

ワークシートの内容は、1ページは、調べる視点（図1）。2ページは、調べたことと清白寺と室町文化とのつながりのレベル（図2）。3ページは、つながりのレベルの理由とした（図3）。児童が、このワークシートを使い、清白寺を調べることによって、教科書で学ぶ歴史の内容と、地域との関連を意識できると考えた。

図1 第2パートの調べ学習時のワークシート

清白寺調べ	
調べること 清白寺と室町文化のつながり	
①だれが建てたのか ②なぜそこにあるのか ③どんな建物があるのか ④いつからあるのか ⑤室町のどんな文化と関係しているのか など	
↓	
つながりのレベルを考える	
つながりの レベル	

図2 第2パートの調べ学習時のワークシート

清白寺調べ	
調べたこと	
重要情報	
つながりの レベル	

図3 第2パートの調べ学習時のワークシート

レベルにした理由

清白寺について調べる際には、児童の主体的な活動となるように、資料をホームページ、地域のガイドブック、パンフレットなど複数用意した。また、調べたことをまとめる際には、端末での入力だけでなく、手書きでノートにまとめたものをカメラで撮影し、掲載するなど、児童の学び方に合わせて選択できるようにした。さらに、調べ学習を行う際に、児童が調べる視点と下記の5点で示した。

- ①だれが建てたのか
- ②なぜそこにあるのか
- ③どんな建物があるのか
- ④いつからあるのか
- ⑤室町時代のどんな文化と関係しているのか

これらの視点をワークシート（図1）に示すことで、調べ活動に苦手意識を持つ児童も調べることがスムーズにできるようにした。児童の中には、この視点を活用して各自が作成する清白寺調べのワークシートに取り入れ、自分なりに工夫してまとめる児童も見られた。

以上のように児童が学習に使う教材を工夫して、児童が清白寺と室町文化とのつながりを意欲的に調べられるようにした。

第3時の「まとめ」の活動では、児童が作成したワークシートをもとに、児童が情報共有できる場を設定し、話し合い活動を行なった。情報共有を通して、清白寺と室町文化のつながっている理由や清白寺とのつながりがどこにあったのかななどの視点を増やすことをねらいとした学習活動を展開することができた。活動後には、「新しい発見があった。」「人物との関係がよく

わかった。」「清白寺の凄さがわかった。」などの意見があげられた。このような意見をもとに、教師から、「清白寺の魅力を伝えるために、清白寺のどのようなところを、誰に、どんな方法で伝えたいですか?」と児童に問い、清白寺の魅力を伝える活動について考える活動に展開することとした。この活動を取り入れることで児童に、「歴史を学ぶ意味」で示されている「歴史で学んだ知識が発信できることを実感させる」「発信する活動が歴史を学ぶ意味につながることを感じるきっかけづくりになる」と考え、授業実践に取り入れることとした。

4. 授業の実際

(1) 第2時の児童のワークシート

児童が清白寺と室町文化との「つながり」について、どのように考えたのかをワークシートをもとに考えていく。

児童 M.R は、図 1 で示した「5つの視点」に基づいて清白寺について調べたことをまとめている(図 4-1)。これをもとに、室町文化と山梨市のつながりを分析していた。学習を進める中で、人物や建築様式に注目し、つながりのレベルを設定することができた(図 4-2)。この児童は、ホームページや地域のガイドブックなど複数の資料をもとにワークシートを作成していた。

図 4-1 児童 M.R のワークシート

海湧山清白寺調べ	
調べたこと	⑤
① 足利高氏(尊氏)	・開基が室町幕府の初代将軍だから
② 国家安泰、戦勝祈願のため	・建てられた時代が室町時代だから
③ 仏殿、本堂、庫裏	・建築を指導した僧が室町時代の人だから
④ 1333年	・宗派が鎌倉時代から室町時代にかけて広まったものだから
重要情報	仏殿は室町時代に建てられ、戦国時代の火災を免れた。
つながりのレベル	

図 4-2 児童 M.R のワークシート

レベルにした理由

開基が室町幕府の初代将軍、室町時代に建てられ、建築を指導した僧が室町時代の人間であったり、建築要素にも室町文化が関わっているから

児童 T.K は、「人物に視点」を置いて、調べ学習を行っていた(図 5-1)。児童 T.M は、教科書に記述されている足利氏との「つながり」を調べる中で、自分の考えをしっかりとまとめ、ワークシートを工夫して作成することができた。また、情報共有後には、建物について知ったことを追記し(図 5-2 の赤の点線)、人物に加え、建物の様子からも「つながり」を見つけようとしており、主体的に学習を深めている姿が見られた。

図 5-1 児童 T.K がまとめたワークシート

清白寺調べ	
調べたこと	足利尊氏が清白寺を建てた 家内安全、交通安全、厄除けのご利益がある。(願われている) 『甲斐国志』によれば開基は足利尊氏で、国家安泰戦勝祈願所として創立し、二世住職で夢窓疎石の高弟清溪通徹により開創され、清溪が師の夢窓を開山と位置づけている。
重要情報	室町幕府で建てられた 寺院の写真 寺院の写真
つながりのレベル	

図 5-2

レベルにした理由

清白寺を建てた人が室町幕府と関わりのある足利氏(足利尊氏)だから関わりが深いと思う。

また、仏殿は数少ない室町幕府で造られた、仏殿であるから

他の児童のワークシートを見ていくと、清白寺と室町文化との「つながり」を見つける際には、人物に注目して考えている児童が多く見られた。また、人物と建物といった複数の視点から関連を見つけている児童もいた。今回は、児童に5つの調べる視点を与えた上で調べ学習を行なったため、提示した視点をもとにして調べ、ワークシートにまとめる児童が多かったことを考えると、教師側の提示の工夫も必要であると考え。

（2）第3時の児童のワークシート

児童は、第2時の調べ学習をもとに、第3時では、児童同士で「つながり」について調べたことを情報共有する活動を行なった。その活動後の児童の「振り返り」から「今まで知らないことを知れた。」「4年生の時に知りたいこともあった。」「自主学习で調べたい。」など、室町文化とのつながりに加え、清白寺についても興味・関心を高める発言も見られた。こうした発言をもとに、第3時では、「清白寺のよさについて伝える」授業展開を考えた。児童にワークシート(図6)提示し、3つの視点でまとめさせた。1点目は「清白寺のよさ」、2点目は「誰に」、3点目は「方法」である。この3つの視点をもとに、児童は自分の考えをワークシートに記入した。

図6 第3時で使用したワークシート
清白寺のよさを伝えるアイデアを考えよう

よさ	だれに	どんな方法で

児童が記述したワークシートから「よさ」という視点で多く見られたのは、「室町文化、国宝の建物」であった。「誰に」という視点では、「家族、4年生、観光客、外国人観光客」など、さまざまな人物を対象として挙げている児童が多く見られた。「方法」という視点では、「ポスターやイン

ターネット、動画作り」など、「誰に」という視点をもとに様々な方法を考えることができた。

児童は、歴史で学んだことは、様々な人達に多種多様な方法で発信できることをこの学習を通して学ぶことができたと考えられる。

5.結果と考察

ここからは、2つのリサーチクエストに沿って結果を示しつつ、考察していく。

まず、リサーチクエスト①「歴史学習において地域教材を活用する事は、児童が歴史的事象と地域との関わりを理解するのに効果的か。」について、述べていく。

検証のアンケート項目は、以下の4つとした。

1. 歴史の授業は好きですか。
2. 歴史で学習したことは、今の自分たちの生活の役に立つと思いますか。
3. 歴史の学習で学んだ出来事と地域のことは関係があると思いますか。
4. 歴史の学習をして、地域の歴史について調べたいと思ったことはありますか。

質問1, 2, 4については、実践前と実践後での大きな変化は見られなかった。

ここでは、質問2の回答についての変化について見てく。(図7)

図7 実践前・実践後

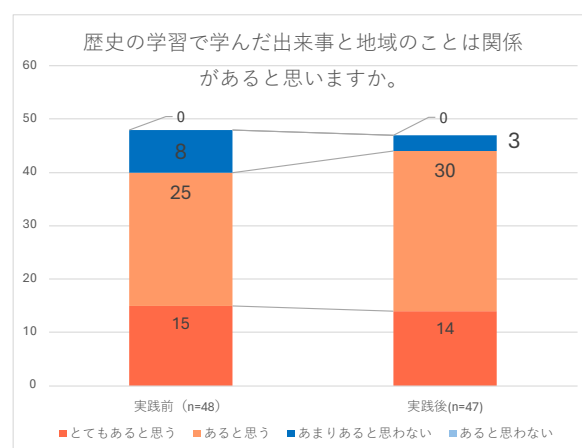


図7は、実践前の「歴史の学習で学んだ出来事と地域のことは関係があると思いますか。」という問いに対し、「とてもあると思う(15名)」「あると思う(25名)」と回答した人数の合計は

40名であった。実践前は、回答人数の84%が、「関係がある」と考える結果となった。

実践後のアンケートにおいて「とてもあると思う(14名)」「あると思う(30名)」と回答した人数の合計は、44名であった。全体の回答人数は1名減ったが、94%の児童は「関係がある」と答える結果となった。

実践前と実践後の同じ回答項目を比較すると、4名増加した結果となった。また、「あまりあると思わない」と回答した児童は、8名から3名に減少している。

清白寺という地域教材を活用した授業実践から以上のようなアンケート結果を得ることができた。児童にとって身近な地域教材を歴史学習の単元に取り入れたことで学校で学ぶ歴史の出来事と地域のこの関係について「つながりがある」と考える児童が増加したことがわかる。このことから、リサーチクエスション①は「支持される」と考える。

次に、リサーチクエスション②「歴史学習において地域教材を扱うことは、児童が歴史で学んだことが活用できると考えられることに効果的か。」について、述べていく。

児童が単元の終了時に書いた授業の「振り返り」の記述をもとに考えていく。

毎時間行っている児童(41名)の「振り返り」の記述内容を分析すると、次の3点の内容に分類することができた。

一つ目は、「清白寺について歴史的な視点で理解できた」という記述。二つ目は、「歴史的な事象と地域教材とのつながりを知って学習への意欲が喚起された」という記述。三つ目は、「学んだ歴史的な事象について発信していく大切さを感じた」という記述である。分析した3点の記述から、リサーチクエスション②との関連するのは、三つ目の記述であると考えた。

児童のこれら3点の記述内容のうち、児童が記述した割合が多かったのは、一つ目の記述であり、41人中38人の児童の記述が見られた。

次に多かったのは、二つ目の記述であり、41人中13人の児童の記述が見られた。

三つ目の記述については、41人中11人の児童

が記述しており、25%の児童が記述していたことがわかった。リサーチクエスション②の内容に関連する記述が、三つ目の「学んだ歴史的な事象について発信していく大切さを感じた」という内容であることから、地域教材を取り入れ、活用することで歴史的な事象の理解がより深まると感じていることが、児童の「振り返り」から読み取ることができた。

このことから、リサーチクエスション②については、ねらいとする記述は見られたものの、地域教材を取り入れた学習が、児童にとって学習内容の理解を深めると感じていることが多いと分析することができる。そのため、一部において支持されたといえる結果となった。

これは、単元構成や内容にも関係するため、今回の実践だけでは判断できない部分でもあると考えられる。

6. 終わりに

ここまで、小学校社会科における児童が歴史を学ぶ意味を考えることを目的とした地域教材の活用について、小学校第6学年での実践とその結果の分析をもとに明らかにしてきた。

最後に、本研究での成果や課題についてまとめ、現場で活用する際の留意点を述べていきたい。

まず、今回の成果としては、地域教材を活用する事が、児童の歴史学習への興味・関心を高めることにつながることが検証されたことである。児童にとって身近である清白寺を題材としたことで歴史的な事象との関わりを意欲的に考えることができた。本実践では、室町文化の単元と地域教材を関連させたが、他の単元においても実施していくことで、児童が「歴史を学ぶ意味」の実感によりつながるだろう。

2つ目は、歴史で学んだことを活かす学習活動ができたことである。これまでの歴史学習では、児童は知識を得ることが楽しさと感じていた。しかし、今回、学んだことを発信するという活動を取り入れたことで、歴史学習への新たな学びがあることを児童も実感できたと考えられる。

課題としては、以下の3点が挙げられる。1点目は、単元計画の工夫である。単元のどの部分に

地域教材を活用するかが課題となる。本実践を行なった室町文化に関する単元は、指導計画では全4時間で構成されている。しかし、本実践では、通常の4時間と地域教材の学習3時間の全7時間での実践となった。今回のように、地域教材を扱う時間を他の単元にも加えると、時数が足りなくなってしまうことが考えられる。そうならないためにも、どの単元で、どのような地域教材を扱うのか、授業時数をどのようにマネジメントするのか、歴史学習全体を見通す意識を醸成していく必要があるだろう。

2点目は、地域教材の見つけ方である。今回は、児童が訪れたこともあり、自分たちでも行くことのできる文化財を教材として活用することができた。しかし、地域の実態では、文化財などがないことも考えられる。また、あったとしても、それをどのように教材化するのも課題として考えられる。学習内容や目標を見ながら、活用できるかどうかを判断していくことも地域教材活用をしていく上では大切になるだろう。

3点目は、地域教材を調査する時間の確保である。様々な校務を抱える中で、地域に出て、教材を探す事は、かなりの労力がある。こうしたことも地域教材を活用が進まないことにつながっていると考えられる。忙しい校務の中で、時間をマネジメントできるように、指導のポイントを明確にして教材開発をしていくことが大切になるだろう。

最後に、本研究を学校現場で活用する際の留意点を述べたい。

本実践では、「歴史を学ぶ意味」について児童が考えることを念頭において単元づくりを行なった。地域教材を学ぶだけでは、歴史学習の目的と外れてしまう可能性がある。そうならない為にも、歴史学習や単元の目標を意識して、地域教材を取り入れていくことが大切となるだろう。

その上で、児童が、地域教材をもとに歴史との関わりを知り、それをいかす活動につなげていくことが、「歴史を学ぶ意味」を考えることにつながると考えられる。

7. 引用・参考文献

- ・石井重雄（1981）「何のために地域を扱うのか」『歴史地理教育』318
- ・木村博一（1992）「社会科教育と郷土学習」歴史教育者協議会編『歴史地理教育実践選集 第33巻』新興出版社
- ・原田智仁（2023）『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて—』教育情報出版
- ・堀田 幸義(2019)「小学校の歴史教育における地域教材の活用と主権者意識の醸成」宮城教育大学紀要 53巻
- ・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』
- ・日本社会科教育学会編（2012）『社会科教育辞典』2012, ぎょうせい